

東みよし町「旧三加茂町」における民間薬調査

民間薬調査班 (徳島生薬学会)

川添 和義 ^{*1,2}	伏谷 秀治 ^{*2}	田島壮一郎 ^{*2}	田岡 寛之 ^{*2}	中川 博之 ^{*2}	小中 健 ^{*2,3}
石田 俊介 ^{*2}	鈴江 彩佳 ^{*2}	板東佐奈子 ^{*2}	洲山 佳寛 ^{*3}	中野芙佐子 ^{*3}	佐渡 香織 ^{*4}
市川 沙季 ^{*4}	須江 和由 ^{*4}	巻幡 美幸 ^{*4}	松本 直貴 ^{*4}	萬谷 朋子 ^{*4}	小早川夏樹 ^{*4}
佐藤 寿世 ^{*4}	武方みなみ ^{*4}	森山 耕太 ^{*4}	和田 悠 ^{*4}	今林 潔 ^{*5}	敷島 康普 ^{*6}
折田 康明 ^{*6}	柏田 良樹 ^{*1}	高石 喜久 ^{*1}	水口 和生 ^{*1,2}		

要旨：徳島県の各地域に伝承される民間薬の調査研究の一環として、東みよし町「旧三加茂町」(旧三好郡三加茂町)における民間薬調査を行った。アンケート形式でサンプル調査(回答数339戸)を行った結果、1,121件、121品目の民間薬について回答があった。そのうち利用目的がわかっているものは831件、99品目であった。回答の多かった民間薬としてはアロエ、ドクダミ、ヨモギ、センブリなどであった。また、イシャイラズと呼ばれる民間薬について調査したところ、回答者の52.8%が知っていると答え、その84%がアロエであると回答した。これらは美馬市美馬町で調査した結果と類似していたことから、地理的に近い美馬町との情報交流があった可能性が示唆された。情報の偏りは他の都市部地域での調査と類似しており、この地域における民間薬情報もいくつかの代表的なものに集約されつつある現状が明らかとなった。

キーワード：民間薬、三加茂町、イシャイラズ、アンケート調査

1. はじめに

情報化は我々の生活を便利にすると同時に、スピーディーな社会へと変革を遂げるための重要なアイテムである。その反面、情報の取捨選択を余儀なくされることによる「不必要」な情報の消滅が絶えず進行している。民間薬情報はかつて近代的な医療を受けにくい、山間部や遠隔地において日常生活に密着した非常に重要な情報であったはずである。しかし、インターネットをはじめとする情報ネットワークの高度な発達によって瞬時に最新の医薬品情報を得ることができるようになり、同時に、交通手段の著しい発達により最新の医薬品の入手も簡便になった。このことにより、かつては医療への障壁が高く民間薬情報が必要不可欠であった地域において

も、次第にそれは「不必要」な情報として顧みられなくなり、社会から消滅していきつつある。特に、口伝により継承される情報は伝える側と受ける側の両方に必要性がなくなれば急速に廃れていく。さらに伝え手である住民の高齢化と受け手である若年者の減少は情報の衰退に拍車をかけている。しかし、「不必要」であるのはあくまで利用する人たちにとってであり、薬学的観点からは決して「不必要」ではない。薬としての情報が残っていたら、その植物や動物から現代の手法により情報の根拠になる化学成分を取り出すことができるかも知れないからであり、情報をカギとして新しい医薬品の開発につながることも可能となるからである。口伝のみで伝えられる情報は消滅が早く、民間薬情報もその一つである。人々の記憶から消え去る前に、あたかも記念写

* 1 徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部
* 4 徳島大学薬学部

* 2 徳島大学病院薬剤部
* 6 池田薬草株式会社

* 3 徳島大学大学院薬科学教育部

表1 性別・年齢別の情報収集件数（件）

	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	計	回答数 (戸)	1戸あたりの 平均回答数	用途 不明	用途不明と回答 した比率(%)
男 性	2	11	26	47	71	22	36	215	78	2.8	51	23.7
女 性	4	19	59	131	231	61	73	578	178	3.2	145	25.1
複 数	0	6	11	30	51	12	11	121	24	5.0	21	17.4
不 明	0	0	1	18	42	13	133	207	59	3.5	73	35.3
計	6	36	97	226	395	108	253	1,121	339			
全回答件数に 対する割合 (%)	0.5	3.2	8.7	20.2	35.2	9.6	22.6	—				
回答数 (戸)	10	23	35	58	93	28	92	339				
利用しないと回答 した戸数 (内数)	5	9	9	15	19	5	42	104				
(%)	(50)	(39.1)	(25.7)	(25.9)	(20.4)	(17.9)	(45.7)					
1戸あたりの平 均回答数	1.2	2.6	3.7	5.3	5.3	4.7	5.1	4.8				
用途不明	1	3	13	48	97	36	92	290				
用途不明と回答 した比率 (%)	16.7	8.3	13.4	21.2	24.6	33.3	36.4	25.9				

真を撮るように時間の断面として民間薬情報を記録しておくことは、将来の新しい医薬品開発に大いに資することである。また、それは現在を生活している生薬学研究者に課された義務でもある。

徳島生薬学会民間薬調査班では徳島県における民間医療に関する情報継承の状況を把握し、それをできる限り文書化して継承すると同時に当該地域における医薬品利用の資料とすることを目的として調査を行っている。今回は東みよし町「旧三加茂町」における調査を行った（以下、三加茂調査）。東みよし町は平成18年3月1日に三好郡三加茂町と吉野川対岸の三好郡三好町が合併して設置された。平成22年現在、人口は15,044人であり、うち旧三加茂町には9,291人（3,275世帯）が暮らしている¹⁾。今回の

調査では民間薬（薬草）の利用と認識について、戸別に訪問してアンケートを行った。限られた調査員と調査日数のため、全世界ではなくランダムに抽出した家を訪ね調査を行った。本稿では、近隣地域で同様の調査を行った「美馬市美馬地区の民間薬調査」（以下、美馬調査）²⁾、「つるぎ町^{いちろう}地区における民間薬調査」（以下、一字調査）³⁾および「吉野川市山川町における民間薬調査」（以下、山川調査）⁴⁾と比較しながら、旧三加茂町における民間薬利用について考察する。

2. 調査方法

1) 調査期間

調査は基本的に2012年7月28日から3日間と同年

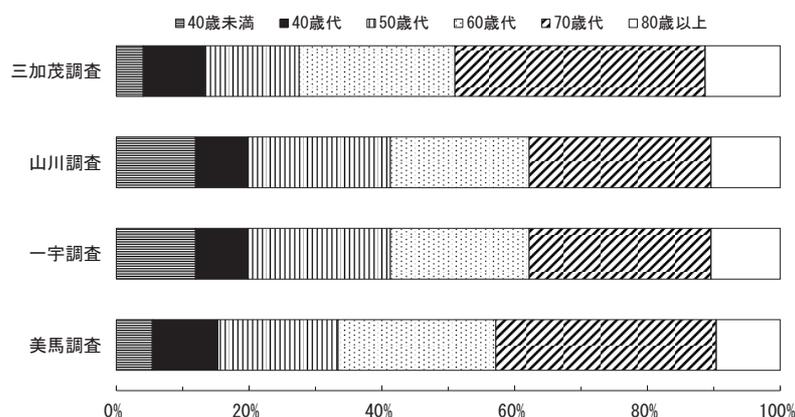


図1 回答者年齢構成比（不明分を除く）

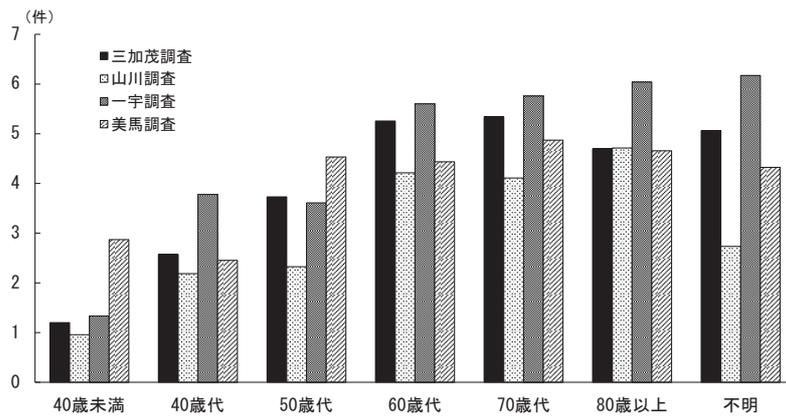


図2 一戸あたりの情報数

8月3日から3日間の合計6日間行った。さらに必要な情報収集についてはそれ以降も行った。

2) 調査形態・内容および同定

伝承医薬品の調査、同定については2007年に行った美馬市木屋平地区の民間薬調査⁵⁾ (以下、木屋平調査) に準じた。

3. 調査結果および考察

1) 調査対象

調査対象は男性が回答したのが78戸 (23.0%), 女性が回答178戸 (52.5%), 複数名で回答が24戸

(7.0%) 不明が59戸 (17.4%) の合計339戸であった。これは当地区の全戸数 (2010年調査時¹⁾) の約10.4%に相当する。回答者の年齢構成と、年齢別の回答者数および情報収集件数はそれぞれ図1と表1に示すとおりである。

2) 情報の概要

得られた情報は全部で1,121件であり、これらを種類別に見ると、植物由来1,035件、動物由来56件、菌類6件、加工品・その他1件、不明23件であった。1戸あたりの平均回答数は4.8件であり、60歳代までは順次増加し80歳代でやや減少した。これまでの

表2 品目別全情報件数と用途不明件数

a. 情報件数が10件以上 (件)

	全情報	用途不明	用途不明率 (%)		全情報	用途不明	用途不明率 (%)
ドクダミ	199	58	29.1	オオバコ	31	20	64.5
アロエ	191	30	15.7	ビワ	30	8	26.7
ヨモギ	94	13	13.8	オトギリソウ	24	10	41.7
センブリ	58	6	10.3	カキノキ	21	5	23.8
ゲンノショウコ	57	27	47.4	スギナ	17	9	52.9
ニホンマムシ	39	6	15.4	アマチャヅル	16	10	62.5
ユキノシタ	36	9	25.0	ヒガンバナ	11	0	0.0

b. 情報件数が3～9件

9～7件 (9品目) [*有効回答が2件以下 1品目]

クコ*, タンポポ, ハコベ, アカジソ, イタドリ, ウラジロガシ, キハダ, マグワ, マタタビ

6～4件 (17品目) [*有効回答が2件以下 1品目]

ウコン, ウメ, カリン, キンカン, サルノコシカケ, トウモロコシ, ニガウリ, ホウセンカ, ウツボグサ, ジャガイモ, ダイコンソウ, ハチ, ムカデ, アカメガシワ*, カキドオシ, チャノキ, フキ

3件 (10品目) [*有効回答が2件以下 4品目]

アリジゴク, イチイ, カラムシ, カンゾウ*, ニワトコ*, サクラ*, タラノキ, ツワブキ, マツ*, モモ

表3 調査地別有効情報数

三加茂調査		山川調査		一字調査		美馬調査	
情報件数	累計(%)	情報件数	累計(%)	情報件数	累計(%)	情報件数	累計(%)
アロエ	161 19.4	ドクダミ	103 18.8	アロエ	140 11.1	アロエ	307 19.4
ドクダミ	141 36.3	アロエ	64 30.4	ドクダミ	94 20.4	ドクダミ	230 34.0
ヨモギ	81 46.1	ヨモギ	48 39.2	ニホンمامシ	60 28.4	ヨモギ	170 44.7
センブリ	52 52.3	センブリ	28 44.3	ヨモギ	46 35.6	センブリ	109 51.6
ニホンمامシ	33 56.3	ニホンمامシ	27 49.2	ゲンノショウコ	36 41.3	ゲンノショウコ	68 55.9
ゲンノショウコ	30 59.9	ユキノシタ	19 52.6	センブリ	36 45.0	ユキノシタ	47 58.9
ユキノシタ	27 63.2	ゲンノショウコ	17 55.7	キハダ	30 47.5	ニホンمامシ	41 61.5
ビワ	22 65.8	オオバコ	11 57.7	マタタビ	27 50.0	オオバコ	36 63.8
カキノキ	16 67.7	ビワ	10 59.6	オオバコ	26 52.2	ビワ	35 66.0
オトギリソウ	14 69.4	ホウセンカ	10 61.4	ユキノシタ	17 54.4	カキノキ	20 67.2
総数	831	総数	549	総数	786	総数	1,581

調査と比較してその傾向は変わらないが、60歳、70歳代での回答数は一字調査とほぼ同程度で、山川調査や美馬調査より多くなっていた。一方、80歳代では美馬調査と同様に回答数の低下が見られた(図2)。なお、男女での回答率に有意差は見られなかった(カイ二乗検定による)。

調査で得られた情報のうち、利用目的がわかっている情報は831件であった。一方、用途不明と回答したのは25.9%で、美馬調査の25.1%とほぼ同程度であった。

民間薬は全体で121品目確認されたが、そのうち利用法がわかっているもの(以後「有効な」と表記)は99品目(81.8%)であった。さらに有効な回答として3回以上出現したものは44品目で全確認数の36.4%であった(表2)。有効な情報数の多いものから並べて情報数が全体の50%を超過するまでの品目数を比較すると、美馬調査と同じく上位4品目で超過していた(表3)。さらに、これらは順番も含めて美馬調査と全く同じでそれ以外もよく似ていることがわかった。一方、一字調査では上位8品目で50%を超えており、三加茂町では美馬町と同様に民間薬の種類に偏りがあることがわかった。なお、山川調査の結果は三加茂調査と一字調査のほぼ中間であると言える。

3) 利用目的・方法について

民間薬の利用目的を図3に示した(割合はのべ件数から算出)。他地域の調査と同様、最も多いのが健胃整腸、下痢止めなどを目標とした「消化器疾患」

(217件、30品目)で、ついで「火傷」(86件、5品目)、「強壮・健康維持」(82件、30品目)、「外傷」(82件、12品目)と続いた。以上の4つで全体の半数を超していたことから、利用目的についてもかなり偏りのあることが明らかになった。利用している民間薬を見ると、最も利用目的として多かった「消化器疾患」に関しては、アロエ(56件)、センブリ(50件)、ドクダミ(44件)がほぼ同程度の件数であり、ゲンノショウコ(22件)がそれに続いた。これら4種類で「消化器疾患」に対する民間薬の約8割を占めており、それ以外はすべて5件以下であった。「火傷」に対しては86件中79件(92%)がアロエと回答していた。次いでジャガイモ(3件)で、それ以外はすべて1件ずつの回答であった。一方、「強壮・

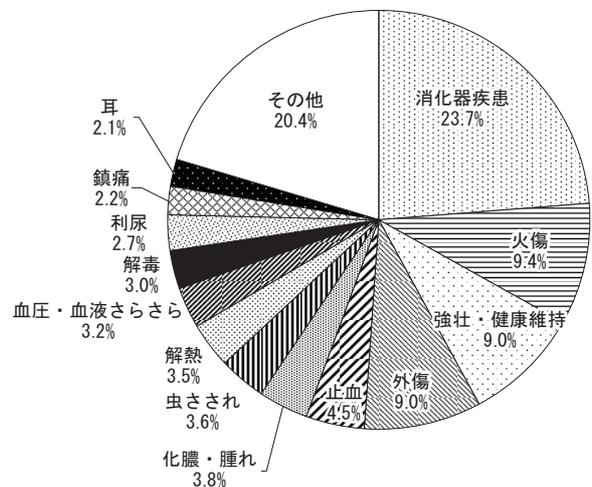


図3 疾患別利用件数の割合

表4 年齢別に見た「イシャイラズ」などと呼ばれる薬材 (件)

	40歳未満	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	不明	計
アロエ	1 (0)	5 (0)	15 (1)	33 (2)	49 (9)	18 (7)	29 (9)	150(28)
ドクダミ	0	2 (0)	2 (0)	3 (1)	5 (1)	1 (0)	5 (3)	18 (5)
ゲンノショウコ	0	0	0	1 (0)	3 (2)	0	0	4 (2)
ヨモギ	0	0	1 (0)	0	0	0	1 (1)	2 (1)
その他	0	0	1 (0)	0	2 (1)	0	1 (1)	4 (2)
不明	0	0	0	0	1 (0)	0	0	1 (0)
計	1 (0)	7 (0)	19 (1)	37 (3)	60(13)	19 (7)	36(14)	179(38)
有効回答数	1	7	18	34	47	12	22	141
全体の戸数に対する比率 (%)	10.0	30.4	51.4	58.6	50.5	42.9	23.9	41.6
全体の回答数に対する比率 (%)	20.0	21.2	21.4	19.1	15.8	16.7	13.7	17.0

括弧内は不明または無回答の情報数 (内数)

健康維持」に関してはドクダミ (20件) とニホンマムシ (19件) が多く、それ以外 (マタタビ, ビワ, ゲンノショウコ, ウメ, アロエなど) は3件以下であったが品目数は28と多かった。これは「身体によい」など漠然とした利用目的も「強壮・健康維持」としたため、比較的多種の民間薬がこのカテゴリに入ったものと思われる。「外傷」に関してはアロエ (37件), ヨモギ (24件), ニホンマムシ (6件) で8割以上を占めていた。なお, ニホンマムシについては皮を利用して外傷の治療にするとという回答が見られた。「止血」にはヨモギの利用率が高かった (41件中39件)。これら以外に特徴的なものとして, 件数は少ないもののヤブコウジを膀胱炎に利用していた例が見られた。また, ヒガンバナの球根を膝の痛みに使う (すり下ろして布などに塗り付け, それを患部に貼る) のは他の地域でも散見されるが, 三加茂調査ではこの利用法の回答が比較的多く見られた。

動物を起源とする民間薬はいずれの調査でも見られるが, 今回の調査でも比較的多く見られた。最も多かったのはニホンマムシで39件, 次いでムカデ (5件), ハチ (蜂蜜, 蜂の子を含む) (5件), アリジゴク (3件) と続いた。利用目的としてはニホンマムシは滋養強壮が最も多かった。ムカデはいずれもムカデなどに対する咬傷にその油漬けを使うという回答であった。アリジゴクは生のまま飲み込んで (小児の) 解熱剤として利用されていた。アリジゴクに

関しては以前の調査にも記録があるが, 今回では3件がそれぞれ違う地区から得られた情報であり, その伝播経路や過去の利用について興味を持たれる。

以上のことから, この地域では消化器疾患に対しては多種類の民間薬が利用されてはいるものの, アロエ, センブリ, ドクダミ, ゲンノショウコの4品目が主に用いられていることが明らかになった。特に, 火傷に対するアロエの利用はこの地域で最も一般的な民間薬であり, また, 動物生薬も比較的多く伝承されていることも確認された。

なお, 今回の調査で確認された薬材について, 地方名, 利用部位, 利用目的, 利用方法を表5にまとめた。なお, 表5において情報数の極端に少ない民間薬または使用目的についてはアスタリスク (*) を付した。また, 使用部位は主なものを記載した。

4) 「イシャイラズ」調査

地域によって呼び方は異なるが, よく効く民間薬を「イシャイラズ」や「イシャダオシ」と呼ぶことがある。今回の調査地域においてもそのように呼ばれる民間薬があるかを調べた。表4に各年代別に, 「イシャイラズ」と呼ぶと答えた数とそのうち用途について「知らない」もしくは無回答の数 (括弧内, 内数) を出現頻度の多い品目順に列記した。「イシャイラズ」について聞いたことがある, もしくは知っているという回答は179件であったが, そのうち約2割 (38件) は用途不明 (無回答も含む) であった。品目としてはアロエが最も多く全回答数の約8割を

占めており、三加茂調査における「イシャイラズ」はアロエであるといえる。年齢別に有効回答数（用途、用法とともに回答が得られたもの）を見ると60、70歳代が最も多く、「イシャイラズ」について回答が得られたものは全回答戸数の半数に及んだ。一方、全体の回答数に対する有効回答数の割合は若年者層で高かったが、これは「イシャイラズ」を認識している率が高いこともよしも、むしろ、アロエを民間薬としてあげている数の多いことに原因があると考えられる。一方、各年齢層別にアロエを回答としてあげた（全回答戸数に対する）比率は40歳以下で10.0%、40歳代で21.7%、50歳代で42.9%、60歳代で56.9%、70歳代で52.7%、80歳以上で64.3%となっていた。このことから、高齢者ほどアロエを「イシャイラズ」として認識する傾向が強いことがわかる。

「イシャイラズ」の起源は地域によって特徴がある。三加茂調査ではアロエをあげたケースが最も多かった。一方、美馬調査ではアロエの利用法に基づく名称（消化器疾患に用いるアロエを「内科」、外傷に用いるアロエを「外科」と呼び、その起源植物も異なる）が特徴的であったが、今回の調査でも同様の情報を一部で見ることができた。これらの結果から、恐らく美馬地域での民間薬情報がどこかで共有されていることも考えられ、地理的關係から考えて興味深い。

5) 薬材の名称

植物や動物の名称については方言で回答するケースが多く、この調査では聞いたままに記録している。メディアなどを通じて入手するものには方言での情報はないと考えられるので、方言での回答はその民間薬が古くから認識されてきた傍証であるといえる。今回の調査でその回答数の半数以上が方言であったものとして、タワラグサ(ウツボグサ)、ヒュージ(カラムシ)、ミコシグサ(ゲンノショウコ)、ジュウヤク(ドクダミ)、マンジュシャゲ(ヒガンバナ)などがあつた。ミコシグサは徳島県西部では比較的多く見られ、その回答数を年齢別に比較すると50歳以下0(0)（括弧内はゲンノショウコの年代別全回答数、以下同じ）、50歳代1(1)、60歳代3(9)、70歳代22(30)、80歳代9(10)と、年齢が上がるに

したがい方言で回答する割合が高くなっていることがわかる。これは、ゲンノショウコという民間薬が親から子に伝わるときに方言を使っていない、もしくは、書籍やメディアなど他のソースから入ってきた情報が定着したものであると推測される。後者の最も顕著な例がニガウリである。これは元来、徳島にはない植物であるが琉球方言のゴーヤが一般的に普及し、この名称とともに民間薬として定着したものと考えられる（今回の調査でも回答はすべてゴーヤであった）。したがってニガウリは新しい民間薬の一つといえる。

4. 総括

東みよし町「旧三加茂町」は四国山地北部から吉野川流域に広がっていて、南は東祖谷（三好市）の峰々に連なり、県西部の文化が色濃く残る地域である。今回の調査ではいつもよりやや長い期間をかけて全世帯の約1割について調査を行うことができた。調査対象年齢は若年者が少なく半数近くが70歳以上の高齢者であり、他の地域と同様に高齢化が進んだ地域であることがわかる。

得られた情報数は1,121件と他の地域に比べても少なくはなかったが、その用途を知っていると回答したのはそのうちの74%程度（831件）に留まった。さらに、339戸（人）について訪問調査したうち約1/3の104戸（人）は「民間薬を利用しない」と回答していた。以上のことから民家薬は聞いたことはあるが自分では使ったことがないし使い方も知らない、または民間薬そのものの伝承がなかった、忘れたという割合が比較的高いということができ、民間薬伝承は旧三加茂町においてもかなり廃れていることが窺えた。この理由として、今回の調査地域は吉野川河岸の比較的人口の多い地域と風呂塔南斜面に広がる人口の少ない急峻な山間部地域を含んでいるが、山間部の人口が少ないことから人口密集地における回答が有意に反映されてしまった点が一つあげられる。これは、民間薬の出現頻度を比較すると、今回の調査結果が美馬調査と類似していることから推測される。すなわち、三加茂調査、美馬調査ともにアロエ、ドクダミ、ヨモギ、センブリの4種類のみで全体の半分以上の回答を占めており、その順

位も同一であった。これは、伝承されている民間薬が極端に偏っていることを示している。旧美馬町は比較的人口密集地域であるため人口の流動も山間部よりは多いと考えられる。したがって、民間薬文化のような必要性が乏しいものは消失しやすく、最小限の情報のみが残っていったと推察される。「イシャイラズ」に関する調査では、アロエをあげた回答が極端に多く見られ、これも美馬調査と非常に近似していた。以上の結果から、旧三加茂町の民間薬情報は旧美馬町と共通するところが多く、地理的にも近いことから人的交流が盛んであったことが推察される。

三加茂調査では民間薬の種類は少ないものの、アリジゴクやムカデなど動物を利用した民間薬が比較的多く見られた。これらは少なくとも最近になって流入してきた情報ではなく、先代から受け継いできたものと考えられる。徳島県においてはどの地域でも民間薬情報は減少傾向にあるが、このように確実に伝承されている民間薬があることは注目に値する。ムカデはムカデによる咬傷を治すという比較的事実的な利用法があるため継承されたものと考えられるが、解熱にしか使わないアリジゴクについては

どのような経緯で残っていったかという点について興味を持たれる。

5. おわりに

伝承は伝える側と受ける側がいないと成り立たず、その点において過疎と高齢化が進む山間部や過疎地域では文化の継承が困難である。しかし、医薬文化はその地域のいわゆる「遺産」であり、文化的にも、また、将来の医薬品開発のためにも継承されるべきものである。様々な悪条件で継承が難しくなってきた現在に少しでも残った「遺産」を記録して残すことは、今を生きている私たちに課された大きな使命といえる。

参考文献

- 1) 平成22年国勢調査, 総務省統計局.
- 2) 徳島生薬学会 (2008): 美馬市美馬地区の民間薬調査, 阿波学会紀要, 55, 79-89.
- 3) 徳島生薬学会 (2010): つるぎ町一宇の民間薬調査, 阿波学会紀要, 57, 89-98.
- 4) 徳島生薬学会 (2011): 吉野川市山川町における医薬品利用調査, 阿波学会紀要, 58, 85-94.
- 5) 徳島生薬学会 (2007): 美馬市木屋平地区の民間薬調査, 阿波学会紀要, 54, 101-111.

The folk medicine of “ex-Mikamo Cho” in Higashimiyoshi Cho, Tokushima Prefecture

KAWAZOE Kazuyoshi, FUSHITANI Shuji, IMABAYASHI Kiyoshi, TAJIMA Soichiro, TAOKA Hiroyuki, NAKAGAWA Hiroyuki, KONAKA Ken, ISHIDA Shunsuke, SUZUE Ayaka, BANDO Sanako, SUYAMA Yoshihiro, NAKANO Fusako, SADO Kaori, ICHIKAWA Saki, SUE Kazuyoshi, MAKIHATA Miyuki, MATSUMOTO Naoki, MANTANI Tomoko, KOBAYAKAWA Saki, SATO Hisayo, TAKEGATA Minami, MORIYAMA Kota, WADA Yu, SHIKISHIMA Yasuhiro, ORITA Yasuaki, KASHIWADA Yoshiki, TAKAISHI Yoshihisa, MINAKUCHI Kazuo,
Proceedings of Awagakkai, No. 59(2013), pp.77-87

表 5

植物			
アカジソ シソ	〔葉, 果実〕 解毒, 鎮咳*, 不眠*, 利尿* 煎じる, 生利用, ジュース(利尿)	ウラジロガシ シラガシ	〔葉, 樹皮〕 結石(胆石など), 腎疾患* 煎じる
アカマツ* メマツ	〔葉〕 強壯 煎じる	ウンシュウミカン* ミカン	保温 浴用
アカメガシワ* アカメガシ	〔樹皮〕 健胃, ガン 煎じる	エビスグサ* ケツメイシ, ハブチャ	〔果実〕 解毒 煎じる
アサガオ*	〔葉〕 褥瘡 生利用	オオバコ	〔全草, 根〕 解熱, 健胃(根), 鎮咳, 利尿・ 盲腸炎・化膿止め* 煎じる, 茶料, 患部に貼る(化膿)
アマチャヅル	〔全草〕 利尿, 肝疾患*, リウマチ*, 強壯* 煎じる	オトギリソウ	〔全草〕 神経痛・リウマチ, 解熱, 健胃整腸 煎じる, 酒漬け
アロエ	〔葉, 茎〕 健胃整腸, 虫さされ, 火傷, 創傷, 止痒, 二日酔い, 乗り物酔い 生の葉を貼る・塗る・なめる, 焼 酎漬け, 葉を食べる	カキドオシ カキネドウシ	〔全草・葉〕 糖尿病, 利尿* 煎じる
イタドリ スイコキ イタンポ	〔根・根茎〕 腰痛, 解熱* 小麦粉と練り患部に貼る, 煎じる	カキノキ	〔葉〕 高血圧, 健胃, 熱中症*, 蜂刺され (シブガキ)* 陰干しにして煎じる, 浴用, 汁を 使う(蜂刺され)
イチイ アララギ	〔葉, 茎〕 糖尿病 煎じる	カラムシ ヒュウジ	〔根・根茎〕 滋養強壯 食用
イチジク*	〔葉〕 吸い出し, 胃腸薬 ドクダミと混ぜて生利用(吸出し)	カリン	〔果実〕 止咳, 喉痛 酒漬け
イチョウ* ギンナン	〔果実〕 強壯 焼いて食べる	キク	〔花〕 健胃
ウコン	〔根・根茎〕 肝疾患*, 健胃整腸*, 高血圧*, アレ ルギー・消酒* 煎じる, 粉にする	キハダ	〔樹皮〕 健胃整腸, 滋養強壯* 煎じる
ウツボグサ タワラグサ	〔全草〕 膀胱炎, 冷え性* 煎じる	キャベツ*	〔葉〕 解熱 生利用
ウメ アオウメ	〔種子, 果実〕 解熱・暑気あたり*, 強壯*, 便秘*, 二日酔い* 種を丸ごと飲む(強壯, 便秘), 酒漬け, 煎じる	キンカン	〔果実〕 鎮咳, 喉痛* そのまま食用, 砂糖漬
		キンミズヒキ*	〔全草〕 便秘 煎じる
		クマザサ*	〔葉〕 高血圧, 肝疾患 煎じる

* 極端に情報数の少ない利用目的

表5 (続き)

ゲンノショウコ ミコシグサ ミコシ	[全草] 健胃整腸, 解熱・解毒, 利尿, 肝・心疾患* 煎じる	チャノキ オチャ, チャバ	[葉] ムカデ刺され, 糖尿病* 出し殻をそのまま患部に付ける, 粉にして飲む
ゴボウ*	[根・根茎, 葉] 創傷 (葉), 整腸 煎じる, 炊く (葉)	ツクミソウ*	健康増進 煎じる
サフラン*	[花] 解熱 雌蕊を湯で振り出す	ツユクサ*	心臓病
ジャガイモ	[根・根茎] 火傷 すり下ろして患部に貼る	ツワブキ	[葉] 神経痛*, 腫れ物*, 炎症* 灸って患部に貼る
スイカズラ* スズカズラ	[根・根茎] 肩こり	トウモロコシ トウキビ	[雌薬] 腎疾患・利尿 煎じる
スイセン*	[根・根茎] 熱をとる 生を患部に貼り付ける	ドクダミ ジュウヤク	[全草] 健胃, 熱とり, 吹き出物, 湿疹, 汗 疹, 毒消し, 吸い出し 塗る, 焼いてまたは生で貼付, 煎 じる, 浴用
スギ*	[葉] 花粉症 煎じる	トチバニンジン* チクセツニンジン	解熱 煎じる
スギナ ツクシノボウヤ	[全草] 利尿・浮腫, 腎疾患, 神経痛 (ツク シ)*, リウマチ・糖尿病* 煎じる	ナス*	心疾患 煎じる
ゼニゴケ*	[全草] ガン	ナツメ*	[果実] 冷え性 酒漬
センブリ センブリ	[全草] 腹痛・下痢, 健胃, 滋養強壮* 振り出す	ニガウリ ゴーヤ	[果実] 糖尿病, 健胃 茶料, 煎じる
ダイコン* ダイコンハチミツ	[根・根茎] 便秘, 喉にいい 食用, 蜂蜜漬け (喉)	ニラ*	[葉] 肺疾患 食用
ダイコンソウ ダイコングサ	[全草・葉] 健胃整腸, 腎疾患・膀胱炎, 黄疸* 煎じる	ニワトコ* ホネツキグサ ホネツギソウ	骨の強化 煎じる
ダイダイ*	風邪 煎じる	ニンニク*	[根・根茎] 肺疾患
タマネギ*	[根茎] 血液循環改善, ムカデ刺され	ネギ*	[全草] 蜂刺され 生利用
タラノキ タラ タラノメ	[根・根茎, 樹皮, 芽] 糖尿病 根皮を煎じる 新芽・樹皮も利用する	ノブドウ*	[全草] 高血糖, 肝疾患
タンポポ [根・根茎]	[根・根茎] 健胃整腸, 花粉症*, 高血圧* 煎じる, タンポポコーヒー	ハコベ ハコブエ	[葉] 解熱, 盲腸炎*, 歯磨き粉として* 煎じる, 煎じて外用 (解熱), 塩で揉んで汁を飲む (盲腸炎)

表5 (続き)

ヒガンバナ マンジュシャゲ マンジュサキ	〔根・根茎 (球根)〕 脚・膝の痛み・浮腫, 熱感を除く 下ろし汁を小麦粉で練って患部に貼る, 下ろしたものを生のまま患部に貼付	ミヨウガ* メギ* トリトマラズ	脳の活性化 〔茎 (針)〕 糖尿病 煎じる
ヒキオコシ*	〔葉〕 健胃	モッコク*	〔葉〕 肝疾患 煎じる
ヒノキ*	〔葉〕 殺菌止血 嚙んで患部に塗る	モモ	〔葉〕 汗疹・湿疹 ゆで汁を塗る, 浴用
ビワ	〔葉, 果実, 種子〕 リウマチ, 高血圧, 虫さされ, 神経痛・関節痛 (葉) 煎じる, 酒漬け, 葉を炙って患部に貼付 (神経痛), 種子蜂蜜漬け, 種子の粉末	ヤーコン* ヤブコウジ*	〔葉, 根・根茎〕 健胃整腸 煎じる 〔全草〕 膀胱炎 煎じる
フキ	〔葉〕 創傷, 止血 汁を患部に塗る	ヤブジラミ* ノニンジン	〔全草〕 足腰を丈夫にする 煎じる
フユイチゴ*	〔葉〕 腎疾患・利尿 煎じる	ヤマブドウ*	〔果実〕 肝疾患, 滋養強壮 酒漬
ホウセンカ	〔花〕 止痒, 虫さされ, 湿疹・蕁麻疹, 関節炎・口内炎* 花を漬けた酒を患部に塗る	ヤマユリ* ユリ	〔根・根茎〕 滋養強壮 球根のデンプンを食用
ホオズキ*	〔葉〕 汗疹・湿疹 生を貼り付ける	ユキノシタ	中耳炎・耳痛, できもの, 火傷, 利尿 生または塩で揉んで汁を使う, 患部に貼る
ホオノキ* コウボク	〔樹皮〕 喘息, 胃もたれ 麦茶に混ぜて煎じる	ユズ*	〔種子〕 肌荒れ・そばかす 酒に漬けて化粧水として
ボケ*	〔果実〕 強壮	ヨモギ ヨゴミ	〔全草, 葉〕 鼻血・止血, 創傷, 健胃整腸 生の葉を揉んで汁をつける, 炊いて鮎状にして塗る, 浴用
マグワ クワ	〔葉〕 腰痛*, 高血圧*, 健胃整腸*, 糖尿病・ダイエット* 患部に貼る (腰痛)	ラベンダー	気持ちがいい 枕に入れる
マダケ*	〔葉, 皮〕 創傷, 防腐剤 生利用		
マタタビ	〔果実〕 滋養強壮, 痛風・脚の痛み, 神経痛, 健胃* 酒漬け, 煎じる	アリジゴク	解熱, 小児の解熱* そのまま飲む
マツ*	〔葉〕 滋養強壮, 高血圧 煎じる	イセエビ*	麻疹 煎じる

動物

表5 (続き)

ウシ* ウシノツノ	[角] 風邪 角を煎じる	ミミズ*	利尿 煎じる
ナメクジ*	痔の痛み 砂糖でといて塗る	ムカデ	ムカデ刺され 油で漬けたものを患部に塗布
ニホンマムシ マムシ ハブ ハメ	滋養強壮, 虫さされ, 外傷・火傷, 結核* 黒焼き, 酒漬け, 乾燥して粉末に, 乾燥して患部に貼る		菌類
ハチ	[虫体, 蜂蜜, 幼虫] 口内炎 (蜜)*, 肝疾患 (蜜)*, 蜂刺 され*, ストレス (幼虫)* 食用, 酒漬け	サルノコシカケ	がん, 解毒* 煎じる